

エクステンション・カレッジ運営方針について

■開設後 3 年間の現状

年度 項目	開設 1 年目 平成 26 年度	開設 2 年目 平成 27 年度	開設 3 年目 平成 28 年度
目的	EC のコンセプトを形成するとともに、知名度の向上により受講者を確保する。	EC のコンセプトを形成するとともに、地域の知的拠点としての役割を明確にする。	生涯学習社会における地域の知的拠点としての役割を果たす初年度とする。
戦略	講座を通して EC コンセプトを内外に発信し知名度の向上を図る。受講者の確保のための講座の配置等に留意する。	受講者の利便を向上させ受講者の拡大を図る。知的拠点として地域課題の解決に係る事業についても着手する。	シティズンシップ教育の高度化を図るとともに、地域課題の解決に向けての具体的な成果を出すように努める。
具体策 (重点施策等)	<p><年間 40 講座の開講> 前期 13 講座に加え、後期 28 講座開講し、年間 41 講座（人文・教養 7 講座、播磨学・地域学 8 講座、現代社会 13 講座、生活・ウェルネス 9 講座、キャリア支援 1 講座、特別講座 3 講座）開講した。</p> <p><ホームページの開設> 全講座開設準備完了時にホームページで紹介し、インターネットから確認・申込等を出来るようにした。</p>	<p><年間 80 講座の開講> 前期 30 講座に加え、後期 56 講座開講（44 講座、生涯学習 4 講座、ワンコイン講座 6 講座、特別講演 2 講座）し、年間 86 講座開講した。</p> <p><生涯学習機能の強化のための調査・研究> 生涯学習開発財団の助成金を活用し、生涯学習に関するアンケート調査を実施する予定であったが来年度以降の採択となったため、H28 年度以降に取り組む予定。</p> <p><講座受講者増加対策の検討・実施> 前期は 30 講座開講し、391 人の受講者数となった。後期ではさらに講座数を増やし広報活動を行った結果、受講生が 703 人となり、年間 1,094 人（H26 年度比較 244.7%）であった。また、新たな受講生を獲得するべく、オープンカレッジの開催（H27.11 実施、来場者 391 人）や特別講演会の実施（H27.11、H28.3）などを行い、新規受講者が 352 件以上（H26 年度比較 146.7%）増えた。</p> <p><資格取得を中心とした学生対象講座の充実> MOS 講座（Word、Excel の 2 講座）を 10 月から 11 月にかけて開講し、5 人の受講があった。</p>	<p><年間 120 講座の開講> 現在 EC 講座 92 講座（前期 41 講座・後期 51 講座／前年度比較+14）開講、その他 22 講座（生涯学習講座 4 講座、ワンコイン講座 14 講座、特別講座 4 講座／前年度+11 講座）開講し、この他にも免許状更新講習 5 講座、介護員養成講習 1 講座、依頼講座 1 講座なども開講し、合計 121 講座開講している。</p> <p><生涯学習機能の強化のための調査・研究> 全日本大学開放推進機構（UEJ）に参加し、大学開放に係る生涯学習についての研究会に定期的に参加している。平成 28 年度より、生きがい創造協会と兵庫大学の連携委員会（IH 委員会）をエクステンション・カレッジが所管することとなり、高齢者需要などの調査の一環としている。さらに同委員会の元、生きがい創造協会と加古川総合文化センターと本学の 3 者で、東加古川地区における連携構想を「東加古川文教施設連携構想に係る検討会」で検討中である。</p> <p><講座受講者増加対策の検討・実施> 前期・後期を合わせて 114 講座開講し、1,642 人の申込件数（前年度比較+548 件）、延べ受講者数は 7,563 人（前年度比較+1,954 人）となった。</p>
期待される効果	EC のコンセプトの明確化と知的拠点としての兵庫大学の知名度の向上。（地域連携）	EC のコンセプトの明確化と知的拠点としての兵庫大学の知名度の向上。（地域連携）	知的拠点としての人材供給などの役割により、共同研究の活性化や外部資金の獲得。（地域貢献）
開設講座数 (予定⇒実数)	40 講座 ⇒ 41 講座	80 講座 ⇒ 90 講座	120 講座 ⇒ 121 講座
受講者数 (目標*⇒実数)	942 人 ⇒ 664 人	1,920 人 ⇒ 1,087 人	2,880 人 ⇒ 1,642 人
講座収入 (依頼講座等除く)	4,186,520 円	7,653,060 円	9,051,290 円

*受講者数（目標）は、1 講座あたりの受講者を 24 人×開設講座数を基準に算出。

■エクステンション・カレッジ 第 2 期・第 3 期 3 か年計画

年度 項目	第 2 期 3 か年計画【成長期】			第 3 期 3 か年計画【成熟期】	
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度～平成 34 年度	
目的	生涯学習社会における地域の知的拠点としての役割をさらに推進するべく、既存の事業を成長させ、かつ新たな事業に進出する。	生涯学習社会における地域の知的拠点としての役割を果たすべく、事業を成長させる。	成長した生涯学習社会における地域のいっそうの活性化に寄与する地域の知的拠点となる。	加古川の地で行う生涯学習機会を成熟させると共に、地域を東播磨に拡大させ、東播磨広域の地域活性化に寄与する拠点となる。	
戦略	シティズンシップ教育を通して、大学の知的財産を開放するとともに、地域に根差した人材を輩出する。	シティズンシップ教育の定着により、自立し地域課題の解決が可能な地域の基盤を担う人材を輩出する。	地域の知的拠点となる体系的なカリキュラムの構築により、継続的に地域に有為な人材を輩出する。	幅広い世代に対応した地域の生涯学習拠点となるべく、加古川市と高砂市などの地域の知的拠点をさらに深化させる。	
対策 (具体策)	引き続き、骨格科目の高度化を図るとともに、分野をさらに成長させる。地域課題を踏まえ、地域の企業等と連携し、解決に導くための共同研究や学内外の組織との連携を図る。地域課題となる社会的包摂の一環としてキャリア支援教育を推進する。	引き続き、地域課題の解決に導き、また就業や地域での役割を果たすための共同研究や学内外の組織との連携を強化する。キャリア支援教育の充実、就労支援や専門職のための質の高いリカレント教育を展開する。	確立した教育カリキュラムをさらに成長させるとともに、その拡大のために通信教育等、新たな教育体制を視野に入れた講座の開発及びカリキュラムの構築を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い世代に対応した生涯学習講座を開講し、安定した受講生を確保する基盤を確立する。 新しい講座を安定して開講するために企業との連携をさらに進める。 地域課題解決型講座を定期的の開講するべく行政との連携をさらに進める。 リカレント講座事業を拡大する。 新たな事業を展開し、収入源の拡大をさらに進める。 	
期待される効果	収入源の拡大と、事業見直しによる収支の安定化。 (経営基盤の確立)	大学への理解度の向上と、多様な受講者による収入の確保。 (経営基盤の安定化)	大学への理解度の向上と新たな受講者の拡大による収入の確保。 (経営基盤の安定化)	大学の理解度と知名度の向上と、新事業による新たな受講者と収入増加。 (経営基盤の強化)	
学内 開設講座数	120 講座	120 講座	120 講座	120 講座	
学外 開設講座数	10 講座	30 講座	50 講座	80 講座	
受講者数 (目標)	EC 受講生 1,690 人以上	EC 受講生 1,950 人以上	EC 受講生 2,210 人以上	EC 受講生 2,600 人以上	教育以外-受講生他 2,000 人以上
初/中/上級/ ワコイン/無料 講座目標数	90 講座/ 8 講座/ 2 講座/ 15 講座/ 5 講座	85 講座/12 講座/ 3 講座/ 15 講座/ 5 講座	80 講座/15 講座/ 5 講座/ 15 講座/ 5 講座	75 講座/15 講座/ 5 講座/ 20 講座/ 5 講座	
学外講座数 拠点※○は講座数	既存/高砂市教育センター⑤、NPO 法人フルーツバスケット②、文具達の森ステフォレ②、加古川市①	新規/兵庫大学②、加古川商工会議所②、明石市教育委員会② 既存/高砂市教育センター②⑩ 他	新規/加古川市観光協会②、 既存/高砂市教育センター④⑩ 他	新規/生きがい創造協会②、高砂市商工会議所⑩、小野市教育委員会②、加古川市社会福祉協議会②、稲美町社会福祉協議会② 既存/高砂市教育センター⑤⑩ 他	